

第5図 大野城の遺構配置図

大野城はお城といっても、近世の天守閣などがあるお城や中世の山城と違い、土塁（城壁）と石垣で山を囲んだ古代の山城です。

城内には、建物跡（役所的機能をもつ建物や食糧庫・武器庫など）、城門、水場（井戸・池）、水門などが造られています。

(※第5図の各番号と各写真の番号が対応しています。)

**【土塁・石垣】**  
**(宇美町・太宰府市・大野城市)**

土塁は四王寺山の尾根をとり巻く様に造られています。谷間など、雨で土塁が崩壊する場所には石垣が造られています。

宇美側と太宰府側は、二重の土塁が設けられています。これら土塁と石垣の総延長は、約8kmにも及ぶ長大なものです。

① **尾花地区土塁**  
 尾花地区駐車場近くにある土塁です。ここからは、阿志岐城跡や基肄城跡が望めます。



① 尾花地区土塁

② **百間石垣 (宇美町)**  
 宇美側から車道で四王寺山に登ると、右手に百間石垣があります。百間石垣は長さが約180mもある大野城跡最大の石垣です。



② 百間石垣

現在は道路になっている部分に、築造当初は城門が造られていたと考えられています。

城門の礎石は、宇美町立歴史民俗資料館と「県民の森センター」に展示されています。



### ③ 北石垣 (宇美町)

百間石垣から土塁線上を東に登って行くと北石垣があります。

この石垣は、谷間ではなく尾根先端部に張り付くように、上下2段に造られています。平成15年の水害で大半が崩壊しましたが、その後、一部が復元されています。



③北石垣

### ④ 小石垣 (宇美町)

北石垣の東側にあります。

小川が流れる大きな谷をふさぐ形で造られた石垣で、本来はもっと大きさがあったと考えられますが、水害によって一部が残っているだけです。

現在は整備され、綺麗な石垣の一部を見ることができます。

また、近くから城門の礎石が見つかっています。



④小石垣  
②①小石垣城門礎石

### ⑤ 大石垣 (太宰府市)

南側の外周土塁線上に造られた石垣で、百間石垣に次ぐ大きなものです。この石垣も水害で大破してしまいましたが、現在は綺麗に修復され、雄大な姿を見ることができます。



⑤大石垣

### 【建物跡】

城内には、主城原礎石建物群・尾花礎石建物群・増長天礎石建物群・八ツ波礎石建物群・村上礎石建物群・猫坂礎石建物群・御殿場礎石建物群・広目天礎石建物などの建物跡が点在しています。現在約70棟の建物が確認されていますが、全て宇美町内にあります。

広目天を除く礎石建物は、ほとんど3間×5間の建物です。



第6図 尾花地区の建物復元図

### ⑥ 主城原礎石建物群 (宇美町)

四王寺山中央部の尾根上にあります。この地区は初期の掘立柱建物(3棟)と礎石建物群(18棟)があります。

建物群の南端にあたる前田地区では、大宰府政庁でも使われている文様瓢(せん)も出土していることから、役所的な機能もある建物があったと考えられています。



⑥主城原建物(礎石)群

### ⑦ 村上礎石建物群 (宇美町)

県民の森センターから北東側にある四王寺集落を通っていくと、主城原地区との分かれ道に出ます。そこを東に進んだところに礎石群があります。建物は現在、約10棟みつかり、そのうち5棟が調査され、礎石が復元されています。



⑦村上礎石建物群



### ⑧ 八ツ波礎石建物群 (宇美町)

県民の森センターから毘沙門堂 (大城山=おおきやま) に向かう途中に、棚田状に整地された八ツ波礎石建物群があります。

ここでは 14 棟の建物が調査され、礎石跡が整備されています。



⑧八ツ波礎石建物群

### ⑨ 猫坂礎石建物群 (宇美町)

県民の森センターの南側尾根上にあります。猫坂地区の建物は、尾根を削って平坦部を造り出しており、掘立柱建物 1 棟と礎石建物 4 棟が確認されています。現在は、4 棟の礎石建物跡が整備されています。



⑨猫坂礎石建物群

### ⑩ 尾花礎石建物群 (宇美町)

県民の森センターから南東側に登った位置に外周土塁と内周土塁がぶつかる場所があります。

ここに、尾花礎石建物群があり、10 棟整備されています。

そのうちの 1 棟の建物周辺からは、黒く炭化した米がたくさん採集されることから「焼米ヶ原」とも呼ばれています。



⑩尾花礎石建物群

### ⑪ 増長天礎石建物群 (宇美町)

宇美町の最南端に位置し、南側の内周土塁に接して 4 棟の礎石建物が造られています。

建物は、ほぼ東西方向に一列に並んで建てられています。

昭和 50 年代に整備されましたが、現在、福岡県文化財保護課によって再整備が行われています。



⑪増長天礎石建物群

### 【城門跡】

内周・外周土塁や石垣の間には、連絡口として門が造られていました。現在、城門跡は 9 ヶ所確認されています (平成 25 年 10 月現在)。確認されている城門のうち、北石垣城門と宇美口城門以外は、いずれも場外に通じるものです。今は門柱の礎石などを残すだけですが、当時は、13 ページ第 7 図のような門があったと推測されています。

### ⑫ 宇美口城門 (宇美町)

百間石垣に接して造られていたと考えられている城門で、現在は、道路となっています。昭和 34 年、門の礎石が川の中から 2 石発見されています。現在は、宇美町立歴史民俗資料館に展示されています。また、昭和 48 年の水害により、門の礎石が 1 石発見され、県民の森センターに展示されています。両礎石は、門柱の形や大きさが異なることから、城門の建て替えがあったことがわかります。



県民の森センターにある礎石



歴史民俗資料館にある礎石



### ⑬ 太宰府口城門 (太宰府市)

増長天地区と尾花地区の外周土塁の東側にある大野城最大の城門跡です。門両側を石垣で組み、門柱は4本柱の櫓門が造られていたと考えられます。発掘調査の結果、3回建て替えがあったことがわかっています。



⑬太宰府口城門

### ⑭ 水城口城門 (太宰府市)

広目天礎石建物跡から土塁線を南に進むと、西に下る山道に一对の礎石があります。この山道を下ると水城に通じていることから、この城門を水城口城門といいます。この門礎は掘立式で礎石の端に丸い切り込みがあり、柱を直接地面に埋め込む形になっています。



⑭水城口城門

### ⑮ 坂本口城門 (太宰府市)

水城口城門跡から土塁線を約400m下ると、内周と外周土塁に分かれる地点があり、ここを少し下った位置に門礎があります。

この城門は、大宰府政庁の裏へ通じていることから、大宰府政庁との連絡用の通路であったと考えられます。



⑮坂本口城門

### ⑯ 観世音寺口城門 (太宰府市)

平成19年、太宰府市教育委員会によって発掘調査が行われ、発見された城門跡です。

土塁の切通し箇所には城門が造られています。

城門内側に石段、城門部に石敷きや石畳が確認されています。



⑯観世音寺口城門

### ⑰ 原口城門 (宇美町・太宰府市)

平成17年、太宰府市教育委員会によって発掘調査が行われ、発見された城門跡です。

土塁のくぼんでいた箇所、石列・柱穴・城門礎石が確認されています。



⑰原口城門

### ⑱ クロガネ岩城門 (宇美町)

平成24年に新たに発見された城門跡です。県民の森音楽堂横から百間石垣へ土塁線にそって北側に下った谷にあります。

江戸時代に描かれた「太宰府旧跡全図」の大野城内に「クロガネ岩 門の石スエ」と記されています。

現在、九州歴史資料館により発掘調査が進められています。



⑱クロガネ岩城門

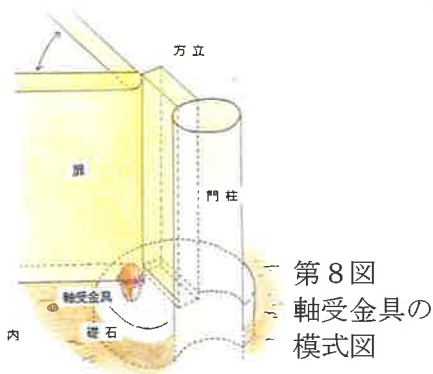


### ⑱ 北石垣城門 (宇美町)

北石垣から内周土塁線を東に進んだ主城原礎石建物群の丘陵先端部と交差する位置にあります。ここは、平成15年の水害によって土塁が崩壊したため調査を行った際に城門跡が発見されたものです。

調査では、門の礎石に鉄製軸受金具が附着したまま出土しています。

軸受金具とは、下の写真のように門の扉を乗せ、門の開閉に必要な部材です。礎石の軸受け部の彫り込みは四角形をしています。水城口・坂本口城門は丸く彫られています。



第8図

軸受金具の  
模式図



⑱北石垣城門の軸受金具出土状況



第7図 城門の推定復元図



鉄製軸受金具

### ⑳ 小石垣城門 (宇美町)

北石垣の東側にある小石垣近くの小川の中から、礎石が発見されています。このことから、百間石垣や北石垣と同じように、小石垣にも城門があったと考えられています。

### ㉑ 屯水の水門 (宇美町)

県民の森音楽堂から西に少し下った谷部に水門があります。この水門が発見される以前は、大野城に水門はないといわれていました。

昭和51年に宇美町が実施した町内文化財分布調査で発見されたものです。当初は下段の水門だけでしたが、その後、風水害等によって土塁線上の立木が倒壊した際、土砂が流失し、上段の水門が姿を現しました。



㉑屯水

### ㉒ 鏡ヶ池 (宇美町)

増長天礎石建物群のそばに、径約5m程の水たまりがあります。

この池を鏡ヶ池と呼んでいます。池の水は水源がないにも関わらず、どんな渇水期でも枯れることがないという伝承があります。

このため、鏡ヶ池には雨乞いに関する行事や伝説が数多く伝えられています。また、「武具浸の池」とも呼ばれていました。



㉒鏡ヶ池

### ㉓ けいさしの井戸 (宇美町)

広目天礎石建物群の南側山頂付近にある直径約80cm、深さ約1mの石組みの井戸です。

この井戸も水源はありませんが、常に井戸の底に10cm程の水が溜まっています。

名前の由来やいつごろ造られたのか、詳細はわかっていません。



㉓けいさしの井戸